

コロナ影響の交通量減で、 重大違反誘発か

横断歩道の死亡事故増加

- 交通量が減少、スピード超過や信号無視など危険な違反
- 休校中の子供が巻き込まれる死亡事故、学校再開後の通学路の安全も懸念
- 入学や進学のと期、啓発や教育、新型コロナの影響で実施できない
- 小学校の新1年生の登下校などの安全が懸念される
- 緊急事態宣言が解除され、学校再開の動き、登下校時の安全確保
- 交通量減り、平日の昼間に子供がいるなど状況が変化 変化を十分に認識

2020/5/15(金) 22:06

今年1月から4月に全国で発生した交通死亡事故のうち、横断歩道を横断中の歩行者らが死亡した事故が急増したことが15日、警察庁のまとめで分かった。

新型コロナウイルスの影響で、交通量が減少する中、車のスピード超過や信号無視など危険な違反が誘発されているとの分析もある。

休校中の子供が巻き込まれる死亡事故も起き、学校再開後の通学路の安全も懸念される中で、国や警察は注意を呼びかけている。

例年は、入学や進学のと期となる4月、春の交通安全運動などにあわせ学校やイベントで啓発や教育が行われるが、今年は新型コロナの影響で実施できないケースも多く、小学校の新1年生の登下校などの安全が懸念される。

緊急事態宣言が解除された39県で学校再開の動きも広がっており、文部科学省や警察庁は全国の教育委員会と警察に登下校時の安全確保を要請する方針だ。

警視庁幹部は「交通量が減り、平日の昼間に子供が歩いているなど状況が変わっている。変化を十分に認識して運転をしてほしい」と呼びかけている。